

ひょうごんテック

2008 年度 総会報告書

目次

1 . 「ひょうごんテックのこれまでと今後について」	1
2 . 総会決議事項	
第 1 号議案 . 2007 年度事業報告	5
第 2 号議案 . 2007 年度決算報告	10
第 3 号議案 . 2008 年度以降の活動方針について	15
第 4 号議案 . 雇用廃止および収益事業の廃止について	15
第 5 号議案 . 会則変更について	16
3 . 2008 年度総会議事録	17
4 . 運営委員、スタッフからの挨拶	21

ひょうごんテック

〒653-0052 神戸市長田区海運町 3-3-8 たかとりコミュニティセンター内

E-mail: tech@tcc117.org URL: <http://tcc117.org/hyogontech/>

ひょうごんテックのこれまでと今後について

2008 年 5 月 9 日

ひょうごんテック代表 吉野太郎

ひょうごんテックはこの 6 月より、有給スタッフのないボランティア団体へと転換し活動を続けます。簡略ながら、当初から今までの 5 年間にわたる経緯をみなさまに報告いたします。

NPO のパソコン・インターネットのサポートを行う団体、ひょうごんテックの前身は、2003 年 6 月、神戸で NPO の技術支援について話し合うために集まった人びとでした。「ひょうご市民活動協議会」の“ワーキンググループ”として活動を開始しました。そのときの愛称とメーリングリスト(ML)の名前が「ひょうごんテック」でした。ツール・ド・コミュニケーションが事務局をつとめました。ML で情報を交換しながら、折りにふれて勉強会を開いたり、NPO イベントの IT サポートを行ったりしていました。

2004 年 4 月、木口ひょうご地域振興財団から 3 年間にわたる助成がはじまり、たかとりコミュニティセンター内に事務所を開設しました。『人の育成を中心軸に据えた市民活動団体の情報通信技術(ICT)支援～リユースパソコンの提供と技術支援ネットワークの立ち上げ～』を掲げ、市民社会に貢献することを目指しました。そして 6 月 5 日の設立総会の日から「ひょうごんテック」がはじまりました。柱となる事業はリユース(中古)パソコンの NPO への提供で、「人材育成」と「技術支援ネットワーク作り」を同時に目指しました。それ以来、「リユースパソコンの NPO への提供事業」から始まり、「NPO のオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験」の完了まで、約 4 年間にわたる活動を、延べ 6 名の常勤スタッフと 1 名のボランティアスタッフ、延べ 8 人の役員によっておこなってまいりました。

中心プロジェクトとしてはじまった、リユースパソコンの提供は 2 年間・5 期にわたって実施しました。当時、市民活動においても IT が欠かせない状況がはじまっていました。しかし、団体で専用のパソコンを持つことができないところも多く、IT 機器の提供を希望する声が強くありました。そこで、リユースパソコンの配布事業に実績のある東京の NPO 法人イーパーツと連携し本事業をスタートしました。その結果、京阪神の団体や兵庫の台風による被災地の団体など、合計 27 団体に延べ 32 台を提供するという成果をあげました。その後、新品パソコンが低価格になったこと、OS などの動作が安定してきたことなどにより、中古パソコンの供給はその役割を終えたと判断し、休止しました。

もう 1 つの理念の中心である「人材育成」に関連した活動として、もっとも活発だった

のは、4年間継続的に行ったメンテナンス(保守・導入)事業でした。この事業に対しては、「困ったことをその場でプロに解決して欲しい」という直接支援への要望が圧倒的に多かったといえます。しかし、直接支援による問題の解決は、一時的な解決でしかない場合も多いため、単に専門家が出向いてパソコンをなおすだけでなく、同時にその団体スタッフのIT力も少しずつ引き上げることを試みました。それが、契約した団体スタッフとのミーティングを毎月持つ「定期メンテナンス事業」の実施です。この「定期メンテナンス事業」を含め、メンテナンス事業全体として、延べ約400件弱の対応を行ってきました。いずれにしても、それぞれの団体の要望に地道に対応を続けることで、この地域のNPOをITの側面から下支えする大きな貢献ができたといえます。現在もなお、急な故障への対応など、本事業へのニーズはまだまだあるものの、後述のような事情から、安定したサービスの提供が困難になるため、この3月をもって休止いたしました。

さらに、NPOにIT専門家を派遣する「アドバイザー派遣事業」(3団体、延べ20回訪問)や、在住外国人サポートを行うNPOと共同しておこなった「在住外国人のIT講習事業」(受益者72名)などを通じて、人材育成の努力を重ね、一定の成果をあげました。

次に、「技術支援ネットワーク作り」について説明します。実のところ、団体の事務局が発足した後の方が、規約にある「全体会」や「交流会」などに集まる人数が減っていき、回数も低下していきました。これは、常勤スタッフの確保により、事務局に対して「安心感」が生まれたことに加えて、新しく立ち上げた事業に重点が移る中、「みなさんにひょうごんテックの活動にどのようにかかわっていただけるのか」という点で公開すべき具体的な情報を会員やMLに出していく体制を整えられなかったことが理由としてあげられます。

その中で、ネットワークづくりとして成功したのは、団体の運営するメーリングリストの参加者の増加とそこでのやりとりの活性化です。前述のメンテナンス(保守・導入)事業や、「NPOのパソコン・インターネット活用状況調査」、「NPOの団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験」などの活動を通じ、直接のかかわりが生まれた方々に対し、地道にMLへの勧誘を行うことができたことが大きな力となりました。特に、この半年、これまでNPOへの直接のかかわりが薄かったオープンソース・ソフトウェア(自由に、無償で使えるソフトウェア)に関わる人びとの参加が増えたことは、NPOに対するIT支援者層の拡大であり、大変うれしいことでした。

また最後の一年間は、一人のスタッフがブログによる情報発信を毎週継続して行いました。このブログはITに詳しくない人でもITの活用や会の活動に親近感を持ってもらう大きな効果があり、好評を博しました。メーリングリストやホームページ以外で、団体の活動を広める大きな力となりました。

全体を通じて見えてきた問題点としては、まず雇用スタッフを持つ団体としてのマネジメントの弱さがあげられます。厳しい社会状況の中とはいえ、助成金をいただいていた 3 年間の間に、助成金終了後の団体運営の見通しをたてることができず、結局、もう一年を加えた合計 4 年間の事業活動となりました。また、最初から事業の立ち上げのみにとらわれずに、与えられた 3 年間という期間を見越して、NPO や社会に対して行うべきことに集中し、その成果をもとに事業を立ち上げていくのがよかったのではという反省もありました。

NPO の ICT にかかわる問題は幅広いものです。設立後の特に 2 年間、団体の規模の小ささをかえりみず多くの事業を手がけてしまったことから、団体の強みがぼやけてしまったことも反省点です。結果として、スタッフ間の十分なコミュニケーションをとる余力がない状況が続きました。幾度かスタッフの入れ替わりもあり、一丸となって課題に取り組める環境を、つねに創り出すことができたとはいえませんが、すべきことの選択と集中を行い、状況を改善しようとする、それぞれのスタッフ、それぞれの運営委員の尽力に感謝します。

団体そのものの運営力としても、2004 年 10 月以後、規約にある代表代行を置くことができないう状態のまま、運営に積極的に関わることができる役員や会員を増やすことができませんでした。その結果、2007 年秋の時点で、実効性のある中・長期的なビジョンと運営体制を打ち出すことができなかつたことが今回の転換への直接のきっかけとなりました。背後にある社会情勢を見ても、私たちの支援対象である NPO 等が IT 関連の出費をなかなか確保できないことや、NPO を支援する私たちの活動にたいして新規の助成をなかなか得られない状況が重なりました。

いずれにしても、団体設立からのすべての期間を通じて運営と事務局に関わった、代表の私の責任は、特に重いものと考えます。関わってくださったみなさま、期待を寄せてくださったみなさまに深くお詫びいたします。

以上の状況から、ひょうごんテックでは、2007 年 12 月の臨時総会を経て、団体そのものの運営・マネジメントのコストを最小限にする道を選びました。スタッフの雇用を終了し、事業を事務局主導ですすめるのではなく、自発的に活動するボランティアネットワークの形成に、活動の重点を置きます。緩やかな会則は残りますが、運営委員会を解散し会員制も終了します。会費を払い会員として関わって頂くことはできなくなりますが、メーリングリスト等で出される個々の提案や活動は、新たに設置される世話人により調整してまいります。

こうなる前に会員としてもっと運営に関わりたいと思っていた皆様、この 5 月のスタッフ雇用の終了のために休止や縮小を余儀なくされたメンテナンス事業などの諸事業に対して期待を寄せていただいていた関係者の皆様には、深くお詫びを申し上げます。

2008 年 6 月、ひょうごんテックは、発足時の「NPO のパソコン・インターネットについ

て困ったことを共に助け合う」という志はそのままに、新しい形で再出発します。前述のように、運営委員会と会員組織は持たず、複数の世話人が共同で運営する形をとります。強いて言えば、2003年6月の出発点にたちもどり、改めて、現在のNPOや社会にとって必要なIT支援の形をより効果的に試みていくものでもあります。

新体制は、過去5年間の活動で蓄積されたITノウハウと、関わって下さった多くの人のネットワーク、そして、この春まで特に力を注いだNPOのオープンソース・ソフトウェア活用実証実験の成果を引き継ぎます。

発足時の理念である「人材育成」「技術支援のネットワーク作り」も変わりません。これらを引き継ぎつつ、Webやブログでの情報発信、勉強会などを通じて、誰もが気軽にITについて相談しあえる場を出発点とし、そこに集約されたNPO等のIT活用ノウハウを広く共有して行ける環境作りを目指します。

なによりも、関わりたい人がやりたい内容に取り組み、成果を共有する仕組みを世話人たちがサポートするという、より自由なIT支援の形を創り出していくことができればと思っています。

長い間みなさまのご支援・ご愛顧に感謝いたします。そして、新しいひょうごんテックへの変わらぬご支援のほどを、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

以上

第 1 号議案：

ひょうごんテック 2007 年度事業報告

I. 2007 年度事業概括と財務状況

1. 事業概括

- ・上半期は当初の計画どおり事業を実施した。下半期については運営委員会と臨時総会での決議により事業計画の変更・縮小を行なった。
- ・2006 年度に開始した「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」の結果報告を行うため、6 月 16 日にミニシンポジウムを行い多数の参加者があった。報告書は 9 月に完成し協力団体や関係者に配布した。この調査報告書の完成をもって事業終了とした。
- ・継続して実施しているメンテナンス事業や、他団体主催の講座（特定非営利活動法人ほっとぽっと、甲南女子大学多文化アクションセンター等）への講師派遣は事業計画通り行った。
- ・下半期は、オープンソース・ソフトウェア（以下 OSS）事業（内容については .1.c 参照）が中心になった。この事業への協力団体が OSS を積極的に使ってくれたことや、NPO 団体以外の外部からの支持や協力を得られたことで予想以上の成果が上げられた。OSS 事業の成果物は今後ひょうごんテック・ウェブサイトで公開する。

2. 財務状況と事業計画の変更

- ・財務状況については、木口ひょうご地域振興財団からの助成が 2006 年度に終了し、追加の助成金獲得がなければ 2007 年度末までの有給雇用は継続できない状況であった。
- ・ひょうごボランティアプラザの中間活動支援助成が 9 月末に決定したが、運営委員会では、ひょうごんテックの将来の展望が描けないことから、2007 年度の事業計画を徹底的に見直し、これまでの雇用体制は 10 月までとすることが決議された。その後、事務局スタッフも参加しての運営委員会の中で再度議論が行なわれ、2007 年度後半は OSS 事業に注力すること、事務局長に緒方が就任し代表を補佐すること、OSS 事業にはスタッフ 2 名が不可欠であるため、今年度末までは従来通り 2 名の有給雇用の体制を維持すること、2008 年度以降は団体規模を縮小することが了承された。
- ・2007 年度の事業計画の修正と 2008 年度の事業形態変更を会員に諮るため、2007 年 12 月 15 日に臨時総会が開かれた。臨時総会で、ひょうごんテックは、以下の方向でマネジメントの形を変える検討を進めることが決議された。1)2007 年度後半より、オープンソース事業を団体の柱とするよう 2007 年度の事業計画を変更する。2)2008 年度は団体規模を縮小する。有給雇用を打ち切り、収益事業を廃止する。3)その後は、IT 支援を行うボランティアなグループとして運営する。

- ・ 2007 年度の主な収入は、事業収入としてスタッフの派遣収入も含め 1,320,490 円、1 月当たりの収入は約 11 万円である。助成金収入として OSS 事業に対するひょうごボランティアプラザからの中間支援活動助成 615,000 円。会費・寄付金収入は合計で 293,610 円。来年度の事業継続が不透明だったため、積極的な会員獲得ができなかった。収入合計は雑収入と合わせて 2,250,321 円になった。
- ・ 2007 年度の経費は、直接事業費として 293,926 円、管理費がスタッフ 2 名の人件費 2,610,900 円を含む 3,340,291 円。1 月当たりの経費は約 28 万円になる。

II. 各事業の内容

1. NPO の ICT 力向上事業

a) 事業収入その他

- ・ ミニシンポジウムの参加費収入と事業報告書頒布収入で、29,760 円。OSS 講演会参加費収入が、12,500 円。助成金としてボランティアプラザ中間支援活動助成、615,000 円。
- ・ 「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」の結果を受け、NPO の IT 関連の支援やメンテナンス事業の強化を図るために、しみん基金こうべと文部科学省生涯学習政策局に助成金を申請した。結果は採択されず、オープンソース・ソフトウェア関連の事業に注力することになった。

b) 「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」事業

- ・ 標記事業は、神戸市周辺の NPO や市民活動団体がパソコンなどの IT をどのように使っているのか、またどのような問題が発生しているのかを聞き取り、今後のひょうごんテックの活動の指針とするために行ったものである。神戸市内およびその周辺の NPO など市民活動団体 31 団体に、調査票 6 枚への記入および訪問対面聞き取りによる調査をし、その結果と分析、ひょうごんテックの IT サポート経験からの提言を報告書にまとめたものである。
- ・ 6 月 16 日、標記事業の報告会を兼ねてミニシンポジウムを開催した。共催は「ひょうご市民活動協議会 (HYOGON)」と「特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンター (TCC)」で、司会進行は「特定非営利活動法人ひょうご・まち・くらし研究所」の山口氏、シンポジストとして「特定非営利活動法人しゃらく」の小嶋氏を招いた。テーマは「何をしている？これからどうする？NPO とパソコン～活用の現状とこれからの情報発信～」。参加者はスタッフも含め 28 名。
- ・ 前年度からの標記事業の報告書は 9 月に完成した。報告書は 25 頁のカラー刷りで、平易な記述とグラフを多用した誰にでも読みやすい内容のものである。130 部作成し、関係者や協力団体への無償配布が約 50 冊、ほっとぽっとパソコンスキルアップ講座参加者への配布が 20 冊、みみずく舎への委託として 20 冊、有償頒布が現在のところ 19 冊、現在の在庫が 16 冊。
- ・ 現在報告書は、ひょうごんテックとみみずく舎のウェブサイト上で広報している。

- c) 「NPO の団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験」事業
- ・7月より標記の OSS 実証実験の事前準備を開始した。
 - ・標記事業の概要は、NPO がパソコンを使って行なう業務をリナックス、オープンオフィス等の OSS を使用して行い、結果をレポートにまとめて公表するというものである。安価で安定した IT 作業環境を NPO に提案するという、ひょうごんテックのミッションに沿って計画された。協力していただいた団体に対してはリナックスインストール済みの機器を貸与し、検証期間中のサポートやメンテナンスはひょうごんテックで行った。
 - ・実証実験開始に先立ち 9 月 14 日、京都ノートルダム女子大学准教授吉田智子氏を招いて OSS を NPO に紹介するための講演会を開催した。テーマは「オープンソース導入の前に知っておくとよいこと」。参加者はスタッフを含め 18 名。
 - ・標記事業のスタッフ人件費と活動費用を賄うため 7 月末にひょうごボランティアプラザ助成金を申請し、9 月末に満額で承認された。この助成金により実証実験は 3 ヶ月間、7 団体で行なわれ、規模、内容共に充実したものとなった。
 - ・検証期間は 2008 年 2 月で終了し、その結果を調査票に記入してもらい、団体ごとに訪問聞き取りを行った。3 月 28 日協力団体を招いて「NPO オープンソース実証実験の報告会」を開催した。参加者はスタッフを含む 15 名。ひょうごんテックスタッフと 3 団体からの発表と問題点などのディスカッションを行い、協力団体と Linux ユーザ会のメンバーなどとの交流が深まった。全ての団体が引き続きリナックスパソコンを使用している。
- d) 報告書作成、ホームページ等での情報発信
- ・上記の「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」報告書に加え、「NPO の団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア実証実験」の事業の成果は、ひょうごんテックのウェブサイト上で公開されている。
 - ・ひょうごんテックのウェブサイトがあった JCAFE ホスティングサーバのサービス終了に伴い、ウェブサイトをつかとりコミュニティセンター (tcc117.org) 配下に移転した。ひょうごんテックのドメイン (hyogontech.net) も廃止される。
 - ・ウェブサイト移転に伴い、ホームページのデザインを一新し、過去の記事、写真等の情報も整理した。

2. メンテナンス (導入・保守) 事業

- a) 非営利活動団体を対象とした、トラブル対応、定期サポート
- ・有償・無償も含め件数は 102 件、有償対応は 56 件、490,580 円。無償対応はたかとりコミュニティセンター内各団体やその他外部からの電話やメールでの相談。
 - ・定期保守契約は 3 団体 (神戸市内の NPO が 2 団体、兵庫県内一般企業) と締結した。2 団体は前年度からの継続、1 団体は 6 月から 11 月までの契約であった。
 - ・2008 年度以降 NPO 団体に対して出張メンテナンスサービスが必要な場合には、パソコン修理・PC トラブル出張サービス業 オフィスオービットを紹介することになった

た。オフィスオービットとはこの件に関して話し合いを持った。

b) 各団体のニーズに応じた導入相談、個別講座

- ・神戸、兵庫県内の非営利団体や、NPO に関係する個人などを対象にネットワーク導入やホームページ開設に関する相談を受けた。
- ・有償対応は 4 件、12,500 円。

c) ICT ボランティアの育成、連携

- ・積極的活動は行わなかった。
- ・オープンソース・ソフトウェア事業でつながりができたリナックスユーザ会のメンバー等がひょうごんテックメーリングリストに参加、積極的な投稿でメーリングリストを通じた助け合い体制ができた。
- ・メーリングリストの登録数は 2008 年 3 月 31 日時点で 102 名。1 年間で約 30 名増加している。講演会や報告会参加をきっかけにメーリングリストに参加された方が多い。参加者の約 70%以上が NPO 団体および関係者である。

3. 情報発信支援事業

a) 情報発信にあたってのコンサルティング

- ・以前よりパソコン相談対応をしていた NPO 法人よりウェブサイトのサポート依頼があった。ウェブサイトの問題点、変更が必要な点等を、評価レポートにまとめ提出した。
- ・有償対応は 1 件、3,500 円。

b) ウェブサイト更新支援、他団体と連携したウェブ制作、広報資料作成

- ・以前から継続サポートを行っている兵庫県外の一般企業のウェブサイト更新は今年度で終了とした。後任の業者は関連会社から適任者を紹介してもらい、引継ぎを行った。
- ・今年度新規に神戸市内の NPO 団体から関連するウェブサイトの相談と更新作業の依頼を受けた。
- ・有償対応は 18 件、125,980 円

4. その他の事業

a) 講師派遣

- ・前年度から行っていた「甲南女子大学多文化アクションセンター」の ICT 研修としてパブリッシャー講座を 2 回行った。
- ・「特定非営利活動法人ほっとぽっと」のパソコン講座（全 6 回）については企画段階から参加、講師紹介等のほか、講師、アシスタントを勤めた。
- ・有償対応は 16 件、328,000 円

b) ひょうご市民活動協議会（以下 HYOGON）、特定非営利活動法人たかとりコミュニティセンター（以下 TCC）との協働。

- ・TCC に所属する団体で構成された TCC/IT 委員会の事務局として、議題提案、議事録の校正を毎回行っている。

- ・ TCC のたかとり教会への移転に伴う、ネットワークと電話移設に関するとりまとめと実作業。業者への依頼。トラブル対応。
- ・ TCC のホスティングサーバ移転(JCAFE から WADAX へ)に伴うとりまとめと実作業。業者への依頼。トラブル対応。
- ・ TCC ウェブサイト内のたかとりひろばの移行と更新作業。
- ・ 代表吉野が TCC の理事および HYOGON の副代表を務めた。
- ・ 6 月 16 日のミニシンポジウム、9 月 14 日の吉田智子氏講演会で、HYOGON、TCC に共催 / 協力を依頼した。

c) 各種 NPO ネットワークへの参画

- ・ 代表吉野が、特定非営利活動法人イーパーツ総会、関西 NGO 協議会主催 PR セミナー、また、NPO 法人シンフォニーからの依頼で大阪府地域福祉推進財団主催「シルバードバイザー養成講座」で講演を行った。
- ・ NPO アライアンスに加入し、そのプロジェクトに代表吉野が協力した。
- ・ 特定非営利活動法人イーパーツより Vista 検証レポートの作成依頼があったが、オープンソース事業に専念するために受託しなかった。

d) その他

- ・ 地元中小メーカーが中心となって相互学習や情報交換を行っている「神戸ながたベンチャークラブ」へ勧誘をいただいたが、ひょうごんテックの事業継続が不透明だったために参加を見合わせた。
- ・ 平成 18 年度の決算報告書を塩川税理士に依頼。無償で対応してもらった。
- ・ 前年度塩川税理士に依頼していた年末調整、労働保険料の作業はスタッフが行った。年末調整説明会にスタッフが参加した。

III. 団体運営体制について

1. 2007 年度役員

- ・ 吉野太郎 (代表) ・ 神谷陽子 ・ 実吉威 ・ 鋤柄和成 ・ 浜口千絵子 ・ 日比野純一 (以上運営委員) ・ 池田啓一 (監事)
- ・ 2007 年度顧問
会田和弘氏 (特定非営利活動法人イーパーツ)
浜田忠久氏 (特定非営利活動法人市民コンピュータ・コミュニケーション研究会)

2. 2007 年度事務局スタッフ・メンバー

- ・ 吉野太郎 (役員) ・ 緒方和也 (有給スタッフ、10 月より事務局長) ・ 大橋和美 (有給スタッフ)

以上

第2号議案：

ひょうごんテック 2007年度 収支計算書(予算対比)

2007年04月1日～2008年03月31日

(円)

科目CD	科目	予算額	決算額	予算残額	執行率(%)
(資金収支の部)					
I 経常収入の部					
2. 会費収入					
6151-1	正会員会費収入 -個人	45,000	42,000	3,000	93.3
6151-2	正会員会費収入 -団体	30,000	42,000	-12,000	140.0
6151	【正会員会費収入】計	75,000	84,000	-9,000	112.0
6171-1	賛助会員会費収入 -個人	30,000	9,000	21,000	30.0
6171-2	賛助会員会費収入 -団体	60,000	15,000	45,000	25.0
6171	【賛助会員会費収入】計	90,000	24,000	66,000	26.7
2. 会費収入計 -		165,000	108,000	57,000	65.5
3. 事業収入					
6201-61	事業収入 -NPOのICT力向上事業	10,000	29,760	-19,760	297.6
6201-62	事業収入 -メンテナンス事業	500,000	490,580	9,420	98.1
6201-63	事業収入 -情報発信支援事業	140,000	125,980	14,020	90.0
6201-70	事業収入 -O S S事業	0	12,500	-12,500	0.0
6201-73	事業収入 -各種講座事業	0	12,500	-12,500	0.0
6201-74	事業収入 -講師派遣事業	250,000	328,000	-78,000	131.2
6201-90	事業収入 -その他事業	400,000	321,170	78,830	80.3
6201	【事業収入】計	1,300,000	1,320,490	-20,490	101.6
3. 事業収入計 -		1,300,000	1,320,490	-20,490	101.6
4. 補助金等収入					
6305-70	助成金収入 -ボラプラ中間支援助成	0	615,000	-615,000	0.0
6305-90	助成金収入 -その他助成金	1,200,000	0	1,200,000	0.0
6305	【助成金収入】計	1,200,000	615,000	585,000	51.3
4. 補助金等収入計 -		1,200,000	615,000	585,000	51.3
6. 寄付金収入					
6501	寄付金収入	50,000	185,610	-135,610	371.2
6. 寄付金収入計 -		50,000	185,610	-135,610	371.2
7. 雑収入					
6551	受取利息	0	2,107	-2,107	0.0
6555	雑収入	10,000	11,307	-1,307	113.1
6556	雑収入(前期清算分)	0	15,254	-15,254	0.0
7. 雑収入計 -		10,000	28,668	-18,668	286.7
経常収入合計 -		2,725,000	2,257,768	467,232	82.9

(円)

科目CD	科目	予算額	決算額	予算残額	執行率(%)
II	経常支出の部				
1.	事業費				
---	NPOのICT力向上事業				
6861	【NPOのICT力向上事業費】				
6861-65	会場費	10,000	2,800	7,200	28.0
6861-80	旅費交通費	0	3,080	-3,080	0.0
6861-110	消耗品費	0	420	-420	0.0
6861-140	印刷製本費	80,000	99,750	-19,750	124.7
6861-190	諸謝金	60,000	10,000	50,000	16.7
6861	【NPOのICT力向上事業費】計	150,000	116,050	33,950	77.4
---	NPOのICT力向上事業費計	150,000	116,050	33,950	77.4
---	メンテナンス(導入・保守)事業				
6862	【メンテナンス事業費】				
6862-80	旅費交通費	25,000	0	25,000	0.0
6862-100	消耗什器備品費	100,000	69,285	30,715	69.3
6862-110	消耗品費	5,000	2,913	2,087	58.3
6862-130	新聞図書費	20,000	0	20,000	0.0
6862-195	支払手数料	0	2,380	-2,380	0.0
6862-196	外注費	0	1,575	-1,575	0.0
6862	【メンテナンス事業費】計	150,000	76,153	73,847	50.8
---	メンテナンス(導入・保守)事業計	150,000	76,153	73,847	50.8
---	情報発信支援(ウェブ制作)事業				
6863	【情報発信支援事業】				
6863-80	旅費交通費	10,000	1,500	8,500	15.0
6863-100	消耗什器備品費	50,000	0	50,000	0.0
6863-130	新聞図書費	20,000	0	20,000	0.0
6863-131	教育訓練費	20,000	0	20,000	0.0
6863	【情報発信支援事業】計	100,000	1,500	98,500	1.5
---	情報発信支援(ウェブ制作)事業計	100,000	1,500	98,500	1.5
---	OSS(オープンソースソフトウェア)事業				
6870	【OSS事業費】				
6870-65	会場費	0	9,200	-9,200	0.0
6870-80	旅費交通費	0	3,080	-3,080	0.0
6870-90	通信運搬費	0	5,900	-5,900	0.0
6870-100	消耗什器備品費	0	43,561	-43,561	0.0
6870-130	新聞図書費	0	7,833	-7,833	0.0
6870-190	諸謝金	0	26,111	-26,111	0.0
6870-195	支払手数料	0	100	-100	0.0
6870	【OSS事業費】計	0	95,785	-95,785	0.0
---	OSS(オープンソースソフトウェア)事業	0	95,785	-95,785	0.0
---	その他事業				
6874	【講師派遣事業費】				
6874-80	旅費交通費	10,000	1,560	8,440	15.6
6874-90	通信運搬費	0	490	-490	0.0
6874-110	消耗品費	0	304	-304	0.0
6874-130	新聞図書費	10,000	1,344	8,656	13.4
6874-140	印刷製本費	10,000	0	10,000	0.0
6874	【講師派遣事業費】計	30,000	3,698	26,302	12.3
6890	【その他事業費】				
6890-100	消耗什器備品費	10,000	0	10,000	0.0
6890-110	消耗品費	10,000	0	10,000	0.0
6890-130	新聞図書費	0	740	-740	0.0
6890-250	雑費	10,000	0	10,000	0.0
6890	【その他事業費】計	30,000	740	29,260	2.5
---	その他事業計	60,000	4,438	55,562	7.4
1.	事業費計	460,000	293,926	166,074	63.9

(円)

科目CD	科目	予算額	決算額	予算残額	執行率(%)
2.	管理費				
---	管理部門				
6901	【管理費】				
6901-20	給料手当	2,600,000	2,610,900	-10,900	100.4
6901-25	通勤手当	250,000	159,830	90,170	63.9
6901-30	法定福利費	50,000	37,535	12,465	75.1
6901-60	会議費	5,000	0	5,000	0.0
6901-65	会場費	0	2,100	-2,100	0.0
6901-75	全体会・交流会開催費	30,000	0	30,000	0.0
6901-80	旅費交通費	50,000	0	50,000	0.0
6901-90	通信運搬費	100,000	109,189	-9,189	109.2
6901-100	消耗什器備品費	80,000	11,456	68,544	14.3
6901-110	消耗品費	30,000	22,678	7,322	75.6
6901-130	新聞図書費	10,000	0	10,000	0.0
6901-131	教育訓練費	10,000	0	10,000	0.0
6901-140	印刷製本費	40,000	9,915	30,085	24.8
6901-165	共益費	240,000	240,000	0	100.0
6901-180	保険料	20,000	17,028	2,972	85.1
6901-185	諸会費	10,000	10,000	0	100.0
6901-190	諸謝金	0	1,000	-1,000	0.0
6901-195	支払手数料	10,000	6,780	3,220	67.8
6901-196	外注費	10,000	15,750	-5,750	157.5
6901-197	会計管理費	15,000	10,500	4,500	70.0
6901-205	法人税	70,000	72,000	-2,000	102.9
6901-250	雑費	10,000	3,500	6,500	35.0
6901	【管理費】計	3,640,000	3,340,161	299,839	91.8
7095	雑損失(前期清算分)	0	130	-130	0.0
---	管理部門計	3,640,000	3,340,291	299,709	91.8
2.	管理費計 -	3,640,000	3,340,291	299,709	91.8
經常支出合計	-	4,100,000	3,634,217	465,783	88.6
經常収支差額	-	-1,375,000	-1,376,449	1,449	100.1

(円)

科目CD	科目	予算額	決算額	予算残額	執行率(%)
III	その他資金収入の部				
	その他資金収入の部合計	0	0	0	0.0
IV	その他資金支出の部				
	その他資金支出の部合計	0	0	0	0.0
	その他収支差額	0	0	0	0.0
	当期収支差額 -	-1,375,000	-1,376,449	1,449	100.1
	前期繰越収支差額 -	2,202,540	2,202,540	0	100.0
	次期繰越収支差額 -	827,540	826,091	1,449	99.8
	(正味財産増減の部)				
V	正味財産増加の部				
	1. 資産増加額				
	1. 資産増加額合計 -	0	0	0	0.0
	正味財産増加額計 -	0	0	0	0.0
VI	正味財産減少の部				
	1. 資産減少額				
	8300 当期収支差額	1,375,000	1,376,449	-1,449	100.1
	1. 資産減少額合計	1,375,000	1,376,449	-1,449	100.1
	正味財産減少額合計	1,375,000	1,376,449	-1,449	100.1
	当期正味財産増減額 -	-1,375,000	-1,376,449	1,449	100.1
	前期繰越正味財産額 -	2,202,540	2,202,540	0	100.0
	期末正味財産合計額 -	827,540	826,091	1,449	99.8

ひょうごんテック 2007年度 貸借対照表

2008年3月31日現在

(円)

資産の部		負債の部	
現金	63,427	預り金	5,409
普通預金	625,267	未払費用	233,274
売掛金	61,080	流動負債合計	238,683
未収金	315,000	固定負債	
流動資産合計	1,064,774	固定負債合計	0
固定資産		負債合計	238,683
固定資産合計	0	正味財産の部	
		前期繰越正味財産	2,202,540
		当期正味財産増減	-1,376,449
		正味財産合計	826,091
資産合計	1,064,774	負債及び正味財産合計	1,064,774

資産の部、売掛金は保守契約と派遣費用3月分(4月に回収)。

資産の部、未収金はボラプラ中間支援助成残金(5月に回収予定)。

負債の部、未払費用は、主に3月分給与(4月に支払い)。

負債の部、預り金は労働保険(6月に支払い)。

会 計 監 査 報 告 書

2007年度ひょうごんテック会計の決算等について、会計監査を行ったので、その結果を次のとおり報告します。

記

1. 監査実施日 2008年4月22日
2. 実施場所 神戸市長田区海運町3-3-8 たかとりコミュニティセンター内
ひょうごんテック事務局
3. 監査書類 2007年度仕訳帳
預金通帳帳じり状況
2007年度収支決算報告書
2007年度貸借対照表
4. 監査結果

適正に処理されていることを認めます。

2008 年 4 月 22 日

ひょうごんテック監事

池田 啓一



第 3 号議案：

2008 年度以降の活動方針について

2008 年度以降ひょうごんテックは、新しい運営形態のもと、「NPO のパソコン・インターネットについて困ったことをともに助け合う」ボランティアによる自発的な活動を行っていく。活動方針は設立趣意書にある理念を継承するものとし、具体的にはメーリングリストとウェブサイトでの情報交換・情報発信、必要に応じての勉強会開催などの活動を行うものとする。

なお、ひょうごんテックが団体として担ってきた役割と責任は引き続き担い続けるものとする。具体的には下記 3 点が最小限である。

- (1) メンテナンス事業におけるこれまでの利用者へのサポートを、可能な範囲で継続すること。
- (2) 「NPO の団体運営におけるオープンソース・ソフトウェア活用の実証実験」における協力団体へのフォローアップを 2008 年度中継続すること。
- (3) これまで受け取った各種助成金等に関わる責任を引き続き全うすること。

第 4 号議案：

雇用廃止および収益事業の廃止について

スタッフの雇用は 5 月末で廃止し、雇用保険適用事務所廃止届を 6 月中に提出する。収益事業は 3 月末で廃止とし、収益事業廃止届および給与支払事務所等の廃止届を提出する。

第 5 号議案：

会則変更の件について

別途説明されている経緯から、下記の会則変更を行いたい。これに伴い、会員制度は廃止、役員（運営委員・監事および顧問）は解任され運営委員会は解散する。今後の運営は総会によらず複数の世話人がこれを担い、決定するものとする。従来の会員（正会員および賛助会員）の活動・運営への提言、参画は新会則に定めるものとなる。

新会則案

1. 本会はひょうごんテックと称する。
2. 本会は、事務所を神戸市長田区海運町 3-3-8 たかとりコミュニティセンター内に置く。
3. 本会は、情報通信技術（ICT）による市民活動団体支援とそれを通じた市民社会の実現を目的とし、この目的に添うさまざまな活動を行う。
4. 本会の運営は世話人の協議により決する。原則複数名の世話人を置くものとする。世話人は必要に応じて代表世話人をおくことができる。
5. 新たな世話人の選任は、現世話人の総意に基づく。
6. 世話人の退任については本人の意思表示によるものとする。
7. 本会の趣旨に賛同するものは、ボランティアとして活動に参加できる。ボランティアは運営全般について決する権利を有しないが、会の活動・運営に自由に意見を述べるができる。
8. 本会の資産は世話人が適切に管理する。その譲渡については世話人の総意により決する。
9. 会則の変更は世話人の協議と総意により行う。会則変更につきボランティアから意見が表明された場合は、世話人はそれを尊重するものとする。
10. 本会の終了は、世話人の総意により決する。

付則

1. 新会則発効当初の世話人は下記の通りとする。

世話人：吉野 太郎	世話人：野方 純
世話人：神谷 陽子	世話人：榎 真治
世話人：村尾 佳美	世話人：関 忠雄
世話人：葛島 立人	
2. 本会則は 2004 年 6 月 5 日発効のひょうごんテック会則の改正として成立し、2008 年 6 月 1 日より発効する。

補足

総会后、竹川清一氏、松浦弘智氏の二名の方が世話人候補に応諾した。世話人の総意をもって、6 月 1 日より竹川氏、松浦氏を含めた全 9 人の世話人体制が発足する。

2008 年度 ひょうごんテック 通常総会議事録

日時：2008 年 5 月 16 日 13:05 より 15:28 まで

場所：みみずく舎 2 階会議室

1. 開会

- 1) 進行役として代表吉野太郎より挨拶。
- 2) 総会定足数につき吉野より報告。開会時に議決権のある出席者 6 名、欠席・委任状提出 11 名、計 17 名につき、会則第 5 章 27 条及び第 29 条第 3 項による定足数 8 名（正会員 22 名の 3 分の 1）を満たしており、総会として成立していることが確認された。
- 3) 議長として日比野純一氏が推薦され、全会一致で選任された。書記として事務局大橋和美が指名され、本人の同意と全会一致をもって承認された。
- 4) 議長より、会則第 5 章第 28 条により議長は表決に加わらず、可否同数のときに議長の決するところよることが確認された。提出された委任状の委任者名の確認が行なわれ、議長への委任票は、最多数の表決に加算されることが吉野より説明された。

2. 第 1 号議案：2007 年度事業報告、第 2 号議案：2007 年度決算報告の審議

- 1) 事務局長緒方和也より総会資料に基づき第 1 号議案及び第 2 号議案の説明及び以下の補足説明が行われた。
 - ・2007 年度事業のうち、「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」は当初ひょうごんテックの身近な団体から始め、県下へと対象を広げていく計画であった。予定していた助成金の獲得ができなかったため、報告書作成と 6 月 16 日の報告会（ミニシンポジウム）をもって事業の終了とした。
 - ・10 月の運営委員会では、2007 年度後半以降のひょうごんテックの事業見通しが立てられず、雇用の打切りが決議されたが、その後スタッフも加わり議論した結果、「オープンソース・ソフトウェア（OSS）事業」を遂行することが決定された。この事業についてはひょうごボランティアプラザの助成金が得られた。
 - ・2007 年度事業計画では、「NPO の ICT 力向上事業」として NPO の IT 担当者のワークショップやセキュリティ講座などを予定していたが、助成金がとれなかったこともあり実施せず、年度後半は上記 OSS 事業に注力した。
 - ・ひょうごんテックが協力した NPO 法人「ほっとぽっと」のパソコン講座では、講座終了後受講者が障害者などを対象にパソコンを教えるなどの動きが出ている。
 - ・管理費を含む経費は月あたり約 28 万円、事業収入が月あたり約 11 万円であった。その差額は昨年度からの繰り越し金と助成金によってまかなわれた。
 - ・決算としては、助成金の獲得が予算より少なかったが、その分経費も低く抑えられたのでほぼ予算どおりに執行できた。

- 2) 会計監査は 4 月 22 日に行なわれ、適正に処理していることが報告された。監事の池田啓一氏が欠席のため、監査報告書を吉野が代読した。
 - 3) 質疑応答については以下のとおりである。
 - ・「NPO のパソコン・インターネット活用状況調査」で得られた知見についての質問に、事務局緒方より「IT を活用できているところ、活用できていないところの差が大きい。古いパソコンをつかっているところも多い」大橋より、「パソコンの普及が進み、IT は NPO の運営に欠かせないものになっているにも拘らずトラブルが多く解決できない現状」との説明がなされた。
 - ・緒方より、上記の報告書（現在は有償配布）はいずれ時期を見てウェブ上で公開し、社会に提供したい旨が発言され、2008 年度体制で協議することとなった。
 - ・OSS 事業の報告書公開はいつかの質問に、緒方より半分は出来上がっており、公開は 5 月末予定であることが説明された。
 - ・管理費の旅費交通費が 0 円であることについての質問に、緒方より各事業費に計上していることが説明された。
 - ・会員より、ひょうごんテックとの協働を予定していた事業はできなかったが、OSS 事業に発展的に繋がっていることを感謝するとの発言があった。
 - 4) 挙手により議決を諮り、全会一致で第 1 号議案、第 2 号議案が承認可決された。
3. 第 3 号議案：2008 年度以降の活動方針について、第 4 号議案：雇用廃止および収益事業の廃止、第 5 号議案：会則変更についての審議
- 1) 吉野より資料に基づき 3 号議案の説明が行われ、関連配布資料「ひょうごんテックのこれまでと今後」が読み上げられた。
 - 2) 第 3 号議案の補足として、緒方より以下の説明がなされた。
 - ・3 月末の資産残高は 826,091 円だが、6 月末の残高は、5 月末までの人件費等の経費、たかとりコミュニティセンター（TCC）の共益費 9 月までの先払い分を計上すると 139,256 円となる見込みである。
 - ・現事務局スタッフで、助成金とメンテナンス事業で購入した物品リストを作成し、それを適正に管理し助成金の目的に応じた使い方をしよう 2008 年度体制に引き継ぐ。
 - ・同じく助成金でおこなった作業、および収益事業でおこなった作業の対象団体を一覧にして、世話人が閲覧できるようにする。
 - ・2008 年度のサポート作業については基本的に無償となるが、経費（交通費等）の出費の如何については新体制で協議することとなる。
 - 3) 本議案についての質疑応答、述べられた意見は以下のとおりである。
 - ・これまでは支援する側とされる側という区別があったが、これからは配布資料にあるように「困ったことを共に助け合う」となるのか？との問いに対し、実作業が必要なものについては専門の業者や他の団体を紹介するが、ユーザ側で解決可能なものについてはメーリングリストでのやり取りで解決できればと思う。その

- 見極めを IT に詳しい世話人によって行われることが肝要との意見が出された。
- ・理念にある「人材育成」について、実際に定期メンテナンスを受けていた会員より、個人としてその場にいれば知識は得られたが、それが団体にまで及ばなかった、という感想が述べられた。同時に定期メンテナンスの直接サポートに助けられたとの感想も出された。
 - ・この「人材育成」はサービスの受け手側の問題でもある。団体の IT 力を向上させることがコスト以上の効果を上げることが理解されず、特に決定権のあるひとの意識が低いことが原因で IT 担当者にばかり負担が増えていること、更に IT のメンテナンス（維持管理）に予算を割けない地域の NPO に問題があるとの意見が複数の出席者より出された。
- 4) 第 4 号議案、第 5 号議案について吉野より資料に基づき説明および以下の補足がされた。
- ・5 月末までの雇用に現運営委員会が責任を持つことから、新会則案の施行は 6 月 1 日からとした。
 - ・2007 年度以前の事業については、新世話人候補の吉野と 5 月末までの運営委員会が対応する責任を負う。
 - ・2008 年 6 月 1 日以降の世話人候補者の紹介。
- 5) 本議案についての質疑応答は以下のとおりである。
- ・ひょうご市民活動評議会（HYOGON）の会員を継続するののかとの質問に対し、吉野から世話人候補の 1 人として会員を継続したいとする意思表明を HYOGON 運営委員会で行なったとの説明がなされた。この事項は新体制の協議により決することとされた。
 - ・2008 年度以降の活動場所は TCC になるのかとの問いに対し、コストも含め活動に都合がよいこと、ひょうごんテックのウェブサイトも TCC のドメインに設置している、という理由で決定した旨が説明された。
 - ・現会則には解散についての規定がないが、これは解散ではないのかとの確認に対し、5 号議案は会則の改訂であり解散ではないとの説明が吉野よりなされた。
- 6) 本議案について出された意見は以下のとおりである。
- ・新会則の項目のうち、会の目的の項目を尊重する趣旨を盛り込むべきではないか。
 - ・新会則には世話人の退任について規定がないが、盛り込むべきではないか。
 - ・団体として対外的に代表世話人が必要になることがあるのでは。
 - ・顧問が解任となるなら、その旨の記載が必要ではないか。
- 7) 挙手により議決を諮り、全会一致で第 3 号議案、第 4 号議案が承認可決された。
- 8) 第 5 号議案につき、以下のとおり修正を 3 点加えることが協議された。また 2008 年度以降の新体制では、会の目的を尊重する旨を総会の場で確認された。2007 年度以前の事業については、新世話人予定者の吉野と現運営委員会が協議して対応責任を負うことについても、総会の場で確認された。
- ・配布資料 第 5 号議案：会則の変更について の趣旨説明文中、次のとおり二重下

- 線部分を追加し修正する。「会員制度は廃止、役員（運営委員・監事および顧問）は解任され運営委員会は解散する。」
- ・新会則案の5のあとに「世話人の退任については本人の意思表示によるものとする」との1項を追加し、全10項目とする。
 - ・第4項代表世話人について、ア) このまま代表世話人についての記載はないままとする イ) 全員が代表世話人であると明記する ウ) 「世話人は必要に応じて代表世話人をおくことができる」と追加する、のいずれかとする。
- 9) 3. 8)について、挙手により以下のとおり決議された。
- ・「第5号議案、会則の変更について」の文を「会員制度は廃止、役員（運営委員・監事および顧問）は解任され運営委員会は解散する。」とすることが全会一致で決議された。
 - ・「新会則案の5.」のあとに「世話人の退任については本人の意思表示によるものとする」との1項を追加することが全会一致で決議された。
 - ・第4項代表世話人については「世話人は必要に応じて代表世話人をおくことができる」と追加することが多数決で決議された
- 10) 第5号議案につき、上記3. 9)の修正内容を加えた修正議案が全会一致で決議された。

4. 閉会

- 1) 議事録署名人として葛島 立人氏、竹川 清一氏、松浦 弘智氏が推薦され、本人の同意をもって承認された。
- 2) 議長より 2008 年度通常総会終了が宣された。

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、議長およびに議事録署名人は次に記名押印する。

2008 年 5 月 18 日

2008 年度ひょうごんテック通常総会

議長 日比野 純一
 議事録署名人 葛島 立人
 議事録署名人 竹川 清一
 議事録署名人 松浦 弘智



以上

運営委員からのあいさつ

この5年間、多くの方にお世話になってきました。さまざまな形で手助けをしてくださったみなさま、つながりを持つことができた全てのみなさまに感謝いたします。特に、転換期のひょうごんテック事務局を2年間一緒に担ってくださった、スタッフの緒方さんと大橋さんには特に助けられました。

オープンソース(OSS)事業を始めるにあたって、OSSをNPOに紹介する講演を吉田智子先生にお願いしたとき、「OSSの活動とNPO活動は本質的に似ていると思う」と伝えたことがあります。思いが重なるそれぞれの活動が、ひょうごんテックで生きていく手応えを感じています。

総会資料の「ひょうごんテックのこれまでと今後」を書き終え、団体転機の総会が終わり、ようやく次のひょうごんテックのことを考えられるようになってきました。

新生ひょうごんテックを今後ともよろしく願いいたします。

吉野 太郎

今まで「ひょうごんテック」に関わって下さった多くの皆さんに、まず心から感謝いたします。ありがとうございました。

この度「ひょうごんテック」は出発点に戻り、それと同時にできることも大幅に少なくなります。けれども、NPO等の活動をITの側面から応援したい！その想いの火が消えた訳ではありません。

この小さな炎を決して消すことなく、みんなが安心してITを使える、そんな環境を照らす灯になるように、新たな気持ちで守り育てて行きたいと思います。今後も「ひょうごんテック」をよろしく願い致します。

神谷 陽子

事務局からのあいさつ

ひょうごんテック、というか、たかとりコミュニティセンターに来て2年。良かったことは、さまざまな世界を持つ人たちとの出会いです。仕事の上では、思いつきに終わったこともありましたが、色々なアイデアが形になって共有することができました。もちろん1人ではできないことです。あとしばらくボランティアとしてサポートを続けますのでよろしく。

緒方 和也

初めての関西暮らし。誰ひとりとして知る人もないままフツのPCユーザとしてやってきたのに2年の間にブログからLinuxまで操るようになるなんて、ひとは変わるものだなあ(しみじみ)……。このまま年を重ねても変化を恐れない自分でいたいと思います。ひょうごんテック、たかとりコミュニティセンターをはじめ、お世話になった多くのみなさまに心よりの感謝を申し上げます。

大橋 和美